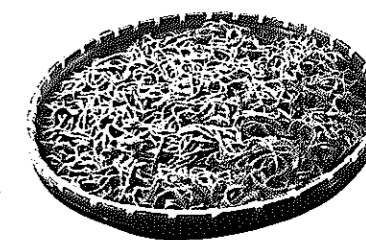


## そば打ち60年の ベテラン

本間大次郎さん



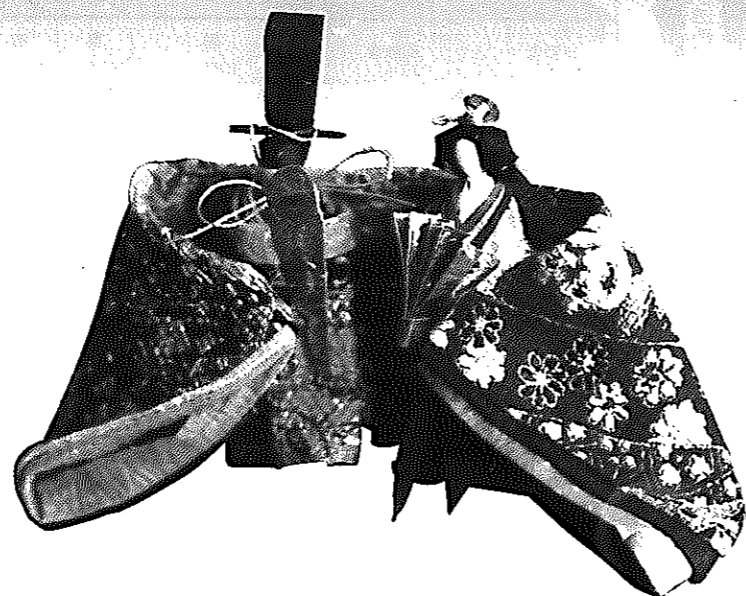
▲おいしく出来上がった  
手打ちそば

「昔はこの家でもそばを打っていた、子供のころは、面白がってよく眺めていました」と話すのは、本間大次郎さん（七十二歳・上笠巻）です。初めて自分でそばを打ったのは、小学校五年生くらいの時。「みよう見まねで、そば打ちを覚えた」といいます。  
本間さんは、市の有志指導者制度ができた平成三年度から、有志指導者としてそば打ちを指導。好評を博しています。「五年くらい前、アセアンから来た研修生にそば打ち体験を指導したのが縁で、県の生涯学習の有志指導者にもなっていました」といいます。周辺市町村へも、そば打ちの依頼があれば出掛けています。  
そばのつなぎは卵と長芋またはふり、そして香り付けのゴボウ。「そばは人の好みによっても粉の配分が違います。白根では、そば粉七に対して小麦粉三くらいの割合が好まれますね」と本間さん。「子供たちのお楽しみ会で小学校へもよく呼ばれて行きますが、本当に喜んでくれる。嬉しいですね」と話してくれました。

※資源保護のため再生紙を使用しています。※紙上の記事・写真の無断転用を禁じます。

## 老後の安心、 介護保険

粗大ごみの出し方が変わります  
市政クリップ  
みんなのページ  
広がれ健康家族  
シリーズ・人  
古木老木の伝承



## 古木老木の伝承

～ふるさとの木々～

## ウメ

今、日本でウメの木は約千種あるといわれています。ウメは風雪をしのぎ、百花に先駆けて花は咲き香り、子孫繁栄の意を含んでたい木です。また、枝の伸び方が龍が天に昇るように見えることから、別名「龍の木」ともいわれています。  
ウメの実漢方薬としても重視されてきました。「ウメはその日の難を逃れる」といふ昔のことわざもあり、毎朝梅干しを食べることによって一日の災難を逃れ、健全に過ごせると伝えられています。そのほかに梅干しを熱い灰に埋めて黒焼きにしたものが、風邪薬として用いられていました。



古木のウメにできるサルノコシカケは珍重され、それを削ったものを煎じて飲むと、ガンなどの病気に効くとも伝えられています。  
ウメの新梢は魔除けの魔矢として神事の弓矢に用いられました。木は床柱、くし、そろばんや数珠などに利用されてきました。  
白根に残る古木のウメはキンコウバイ（金紅梅）。白根の気候に適した丈夫な木で、およそ二五十年から三百年のものが、大郷地区に残っています。

### ▶数字で見る市勢 ※2月1日現在 ※( )内は前月比

人口	40,472人(+17人)
男	19,808人(+7人)
女	20,664人(+10人)
世帯	10,664戸(+19戸)
出生	40人 死亡 23人
1月中の 転入	63人 転出 63人

### 編集ルーム

◎フキノトウを食べました。まだ小さなつぼみですが、一足早く春の味を満喫しました。◎子供のころ、家の庭から土の香りがし、その時何のにおいかわからず家の人に聞いたとき、「春のにおいだよ」と言われたのを何となく思い出しました。◎もう春はやってきています。四季の変わり目は新鮮さを感じさせてくれます。気分を変えるのにも一役買っています。(さ)